

頼れる先の地図

どこが、何の話をするとところか。相談に行く前に、二人で見ておく紙です。



相談は、一度行ったら後戻りできない、というものではありません。

どこも、まず話を聞くところから始まります。

その日に何かが決まるわけではありません。

二人で行っても、何もおかしくありません。一緒に聞けば、あとで食い違いません。

どこに何があるかも、呼び名も、住んでいる地域でちがいます。

ここに書けるのは、どこが何の話をするとところか、までです。

相談のことで、引っかかっていること

あてはまるものにだけ印を。全部につける紙ではありません。右は、相談で聞いてみたいものに丸をつけてください。

- | | | | |
|---|--------------|--|--------------|
| ☐ 相談したことが、どこかに記録として残るのかを知らない | 聞きたい・もう知っている | ☐ 仕事を休んでまで行くことなのか、決めきれない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 記録が、学校や勤め先に伝わるのではないかと思う | 聞きたい・もう知っている | ☐ お金がかかるのかどうかを知らない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 一度行くと、断りにくくなるのではないかと思う | 聞きたい・もう知っている | ☐ 園・病院・役所で言われることがちがいの、どれが本筋かわからない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 途中でやめられるのかを知らない | 聞きたい・もう知っている | ☐ 引っ越したら、また一からやり直しなのかを知らない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 何を持っていけばいいのかを知らない | 聞きたい・もう知っている | ☐ お父さんが行ってもいい場所なのか、迷っている | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ どこまで話せばいいのか、何を聞かれるのかを知らない | 聞きたい・もう知っている | ☐ 相談する先が多すぎて、どこから行けばいいかわからない | 聞きたい・もう知っている |
| ☐ 平日の昼しか開いていないのでは、と思っている | 聞きたい・もう知っている | ☐ まだ、どこにも相談したことがない | 聞きたい・もう知っている |

どこが、何の話をするとところか 呼び名も置かれ方も、自治体でちがいます

市区町村の教育委員会 学校のことの窓口です。就学相談を受け付け、**就学先を最後に決めるのもここです。**

市区町村の障害福祉の窓口 暮らしと福祉の入口です。ここから**相談支援専門員**につないでもらえます。

保健センター・児童発達支援センター 小さいうちの発達の相談。児童発達支援センターが、**相談の入口**になっている地域もあります。

発達障害者支援センター 都道府県・政令市にあります。相談・発達支援に加えて**就労支援**まで見ています。

はじめの一步は、どこからでも大丈夫です。**つながっておくと、必要になった日にすぐ動けます。**

この先、どこに聞か(2つだけ)

- 1

いちばん近い窓口に、一度だけ電話してみる

「発達のことで相談したいのですが、どこに行けばいいですか」だけで十分です。**行き先を覚えてもらうための電話**なので、うまく説明できなくても大丈夫です。
- 2

この紙に印をつけたまま、持っていく

印のついた行が、そのまま最初の質問になります。**聞いてはいけないことは、ありません。**手続きの前に、聞き方から聞いて大丈夫です。

この紙は検査でも診断でもありません。ご相談のときに「どこから話すか」を決めるための材料です。

このシリーズは、1枚ずつ増えていきます。

いま起きていること —— 朝の支度／食事／お風呂から寝るまで／おでかけ・買い物／園・学校／ときどき起きること

この先の見通し —— 療育手帳／特別支援学級・特別支援学校／進路と仕事／頼れる先の地図／大人になってからの暮らしとお金